

五感で学ぶ、楽しい科学 —科学館4階展示室リニューアル

スリーエム仙台市科学館では、展示物の老朽化等に伴い、令和5年度から6年度にかけて展示改修を行っています。4月26日、4階展示室がリニューアルオープンし、科学の不思議を体感できる実験装置や展示が数多く新設されました。「宮城・仙台の自然」エリアでは、広瀬川の自然環境を再現したジオラマが新たに登場。そこで暮らす動植物の標本をさまざまな角度から観察できるほか、館長一押し「広瀬川スカイアドベンチャー」では、ドローンで撮影したダ



▲大迫力! 恐竜や古代象の骨格標本が並ぶ「宮城・仙台の自然」エリア



▶タッチパネルを操作して単位について学べるサイエンスユニット

市政トピックス

仙臺緑彩館開館&緑化フェア開催1周年

仙臺緑彩館の開館1周年を記念して、4月27日、29日に「仙臺緑彩館開館1周年イベント」イロドリミドリ」を開催しました。館内で茶道体験などが行われたほか、景観に恵まれた青葉山エリアならではの企画として、広瀬川をボートで下るラフティング体験を実施。参加者は、普段は見ることができない川からの景色に目を輝かせていました。



▲晴天に恵まれた花植え体験。大人から子どもまで、多くの方が笑顔で取り組んでいました

また、4月27日に青葉山公園で同時開催した「新緑祭」では、全国都市緑化仙台フェア開催1周年を記念した企画も行われました。中央広場での花植え体験には、家族連れを中心に約130人が参加。マリィゴールドなど、約550株の花苗が花壇を彩りました。

市政トピックス

イナミックな映像を大画面で楽しむことができず。また、市内で発見された約500万年前の象の臼歯の化石など、新たな収蔵品を公開。宮城・仙台の大地の成り立ちを一連のストーリーとして学べるよう、展示物の配置にも工夫が施されています。

「科学の探究」エリアでは、日本でも数少ない実物標本が並んだ元素周期表を展示。このほか、長さや重さなど、科学の基本となる単位について学ぶことができる「サイエンスユニット」が新設されるなど、科学の原理・法則を楽しく体感できる実験装置が多数用意されています。

10月からは、3階展示室も改修工事を行い、来年4月にオープンする予定です。今後も科学館のコンセプトである「ふれる科学、ためず科学」を追求し、魅力あふれる施設づくりを進めていきます。

市政トピックス

人・文化・まちを育む創造の広場―複合施設基本計画を策定

せんだい青葉山交流広場に整備する「音楽ホール」と「中心部震

市政トピックス

母子健康手帳とマンホールにジャッキー登場!

人気絵本「くまのがっこう」と連携した子育て応援プロジェクトの一環として、絵本の主人公「ジャッキー」が、母子健康手帳およびマンホールの新デザインに登場しました。

ジャッキーが描かれた母子健康手帳は、4月1日より交付を開始。別冊の「妊娠婦編」、「乳幼児編」にもイラストがあらわに、妊娠から育児期まで、子育てに励む全ての方々にジャッキーが寄り添います。デザインマンホールは、子育て世代をはじめ、多くの方に親しんでもらいたいという期待を込めて、4月18日より子育て支援施設「のびすく宮城野」付近に設置されました。

今後も、子育て応援団長・ジャッキーと共に、「子育てが楽しいまち・仙台」の実現に向けて取り組んでいきます。



▲新デザインの母子健康手帳(表面)

「復興のまちを駆け抜けて―仙台国際ハーフマラソン」

5月12日、仙台国際ハーフマラソン2024が開催されました。一昨年・昨年の大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で出場者数を制限していましたが、今年はコロナ禍前の募集規模に戻し、約1万人の選手がエントリー。新緑

に彩られた杜の都が活気にあふれました。本大会には、国際姉妹・友好都市などからの招待選手のほかに、パリ五輪出場が内定している小山直城選手や前田穂南選手など、多くの実力者が参加しました。また、スペインルゲストラランナーとしてアテネ五輪メダリストの野口みずきさんが参加し、一般出場者と並走しながらエールを送るなど、大会を大いに盛り上げました。



▲緑輝く定禅寺通を力走するランナーたち

市長コラム

春夏秋冬

仙台市長 郡 和子

互いに認め合える開かれたまちへ

昨年6月、ベルギーの首都ブリュッセルで、第6回OECDチャンピオン・メイヤー・ミーティングが開催され、私も参加しました。すでに、本市のホームページ等でも報告していますが、このコラムでもあらためて紹介します。

チャンピオン・メイヤー・ミーティングは、経済協力開発機構(OECD)が、誰もが豊かさを感ぜられる包摂的な経済成長を促進するため、2016年に世界の都市の首長ネットワークとして立ち上げ開催されたのが最初で、現在60余りの都市の首長が参画しています。

私も昨年からチャンピオン・メイヤーの一員として会合に参加し、本市がコロナ禍で取り組んだ低所得世帯や子ども食堂等への緊急支援策のほか、東日本大震災での大規模な住宅再建の経験について報告しました。私

「気持ちに寄り添ったきめ細かな対応」で、このことは、この会合での提言書にも盛り込まれました。

価値観等が多様化する中、一人お一人に寄り添ったきめ細かな対応は、包摂的な経済成長の第一歩であると感じます。誰もが、自らのアイデンティティを評価・尊重され、それが社会でも大切にされることで、居心地良く持続的にまち全体が成長していく。これは、本市が目指すグリーネットシティの方向性とも通じるものがあると私は考えています。この6月には「ダイバーシティ推進会議」を立ち上げ、世界標準のダイバーシティまちづくりに向けた取り組みを一層加速させていきます。ところで、会合に参加するため、パリのシャルル・ド・ゴール空港を利用しました。そのパリは、オリンピック、パラリンピック開催までとわず、初めて競技に採用されるブレイキン(ブレイクダンス)を含め32競技による熱戦が繰り広げられます。仙台市出身、卓球の張本兄妹はじめ本市ゆかりの選手たちが、持てる力を存分に発揮されるよう声援を届けたいと思います!

● 次回の掲載は9月号を予定しています